

貯蔵庫として利用している。地下水位の高いところは、鉄箱を埋めて利用している。

- (2) ハルビン市の農家では、庭に深さ3mの地下食料倉庫がある。凍土層は1.7mなので、冬は天井が凍結、床は凍結しない。
- 今後、周年氷の冷熱を利用できる施設を考える必要がある。

トランスアジア天然ガスパイプライン構想

菅原章文

(株)三菱総合研究所)

報告では今後エネルギー需要の大きな伸びが見込まれるアジア地域において、国際ガスパイプライン網を建設し、ロシア極東、東シベリア、中央アジアに豊富に賦存する天然ガスを活用し、地域の安定と経済発展、環境保全などの面で地域協力を進める構想について、課題と可能性を論じた。

- (1) アジア地域は経済発展が速く、世界的にもエネルギー需要の伸びが大きい地域となっている。1次エネルギー需要の特徴は石炭、石油の比率が高く、同時に域外依存度が高いことである。この傾向が続けば、結果的に中東依存度が高くなり、シーレーン防衛などの問題が惹起されてくる可能性が大きい。また、化石燃料の消費増大は大気汚染の原因となり、酸性雨等の国境を越える広域汚染をもたらし、二酸化炭素排出を増加させ温暖化を加速させる。エネルギー問題は経済、安全保障、環境問題に関わる重要課題であり、この地域でも国際問題の極めて大きな要素である。
- (2) これらを解決するために、「アジアエネルギー共同体構想」がわが国学界、政界において提唱されている。アジア域内におけるエネルギー資源確保と安定供給、域内相互依存を基盤とした安全保障強化などを目的とした国際地域共同体を結成する必要があるとするものである。これは冷戦時代、ソ連からのエネルギー資源輸入を念頭に創設された、欧州エネルギー憲章を模して構想されているが、本報告ではアジア地域の特性をふまえて構想の意義と課題を論じた。
- (3) 上記構想の中核をなすのが、トランスアジア天然ガスパイプライン網整備プロジェクトである。天然ガスは化石燃料の中では最も環境調和型で、ロシア極東、東シベリア、中央アジアに多く賦存する。幹線輸送手段の整備により、これを域内の経済発展、環境保全、平和と安全保障に役立てようとするのがプロジェクトのねらいである。この中で、わが国を含む北東アジアでの国際パイプライン構想は環日本海地域に直接関係を持ち、かつ環日本海地域の理解、協力、積極的な参画が求められる課題である。
- (4) すでにサハリンやイルクーツクにおけるガス田開発および国際パイプラインの検討も関係各国で開始され、わが国も公団、民間企業がプロジェクトへの参画を表明している。今般、橋本

総理大臣によって、わが国の対ロシア政策の変更が表明されたことともあいまって、大きな関心を集めるに至った。

- (5) しかしながら、本地域における国際関係、政治情勢を考慮すれば、欧州のエネルギー憲章に匹敵、あるいはそれ以上の強い枠組みなしには、パイプラインの建設、安定的な運用、そのことによるわが国の利益の享受は困難であることが想定される。こうした状況のなかで、わが国政府および関係機関、関係地域がアジアエネルギー共同体構想に対し果たすべき役割について論じた。